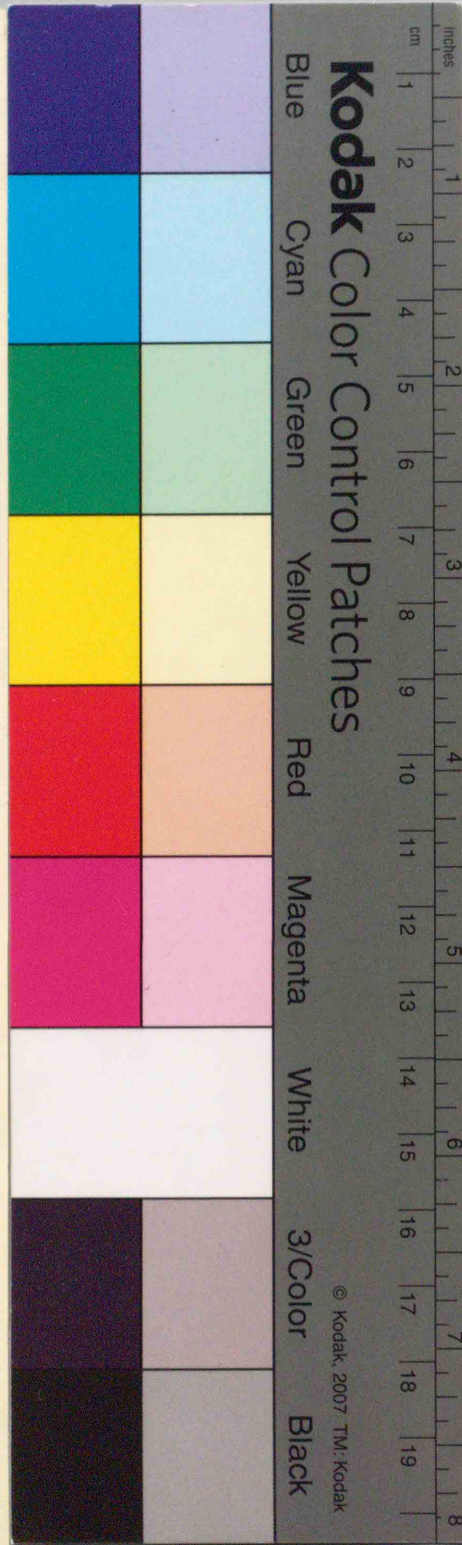


40995

教科書文庫

4
760
32-1935
01304 49485



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



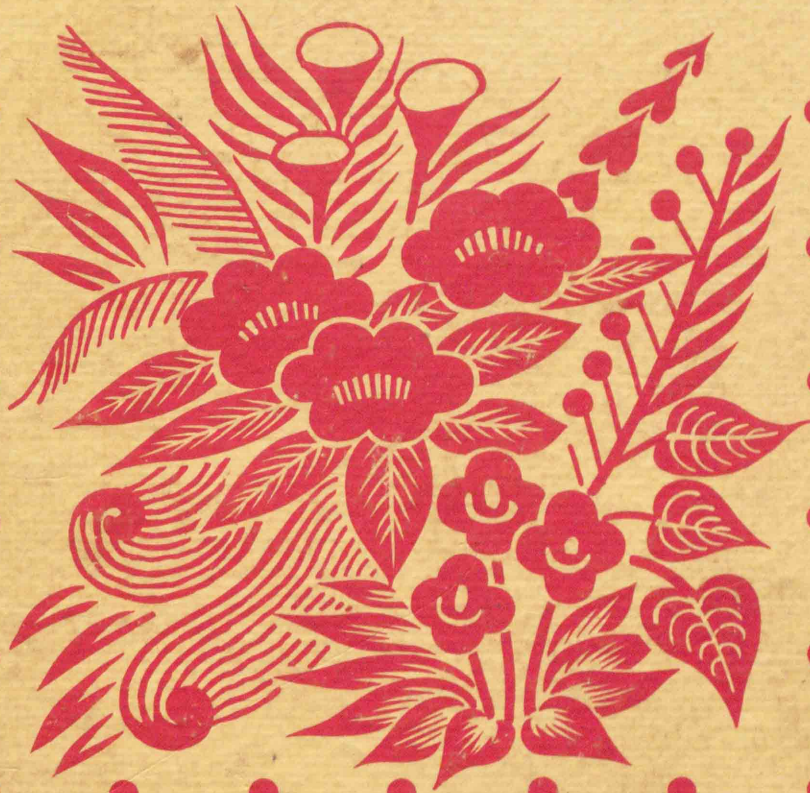
© Kodak, 2007 TM: Kodak



教科書文庫
4
760
32-1935
0130449485

新訂
高等小學唱歌

伴奏附



第二學年用

広島大学図書

0130449485



文部省

中央図書館

教科書文庫

4

760

32-1935

0130449485

求

昭和

十年

七月

井

鉄夫



広島大学図書

0130449485



緒 言

緒
言

- 一、本書ハ、音楽教育ノ進歩ト時代ノ要求トニ鑑ミ、高等小學校唱歌科ノ教科用トシテ、新ニ編纂セルモノナリ。
- 二、本書ハ、各學年ソレゾレ男子用ト女子用トニ分チテ編纂シ、何レモ毎卷二十二章トセリ。内、各十五章ハ、男子用・女子用共通ノ教材、他ノ各七章ハ 男子用・女子用ノ別ニ從ヒテ、歌詞・樂曲トモニ相異ナルモノヲ以テ充テタリ。
- 三、本書ノ歌詞及ビ樂曲ハ、歌詞ニ高等小學讀本・農村用高等小學讀本所載ノ韻文ノ一部(第一學年用「昭憲皇太后御歌」、第二學年用「夏の曉」、第三學年用「稻刈」)ヲ採用セル以外、總ベテ本省ノ新作ニ係ル。
- 四、本書ノ教材排列ハ、程度ノ難易ノミニヨラズ、一面、歌詞ニ示サレタル季節・行事ニ就キテモ考慮セリ。
- 五、本書ハ、取扱者ノ便宜ノタメ、唱歌曲ノミノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、伴奏附ノ樂譜ヲ掲ゲタルモノト、二種類作製セリ。但シ、後者ハ、男子用・女子用共通ノモノ、男子用・女子用各別ノモノヲ併セ掲ゲタルヲ以テ、各卷二十九章ヨリ成ル。
- 六、本書ノ樂曲ハ、事情ニヨリ、伴奏ヲ附セズシテ授クルモ差支ナシ。然レドモ、伴奏ヲ附スルコトニヨリテ、タダニ歌唱ニ便スルノミナラズ、ナホ歌曲ノ興趣ヲ増進セシムルコトヲ得ベシ。

広島大学図書

0130449485



七、 唱歌曲ノミヲ掲ゲタルモノニ於テハ、伴奏ノ前奏・間奏・後奏ノ部分ニ對シテ、必要ナル休止符ヲ附シ、又ハ休止符ト併セテ當該箇所ノ伴奏ノ主要旋律ヲ記シ、以テ歌唱ニ便ナラシメタリ。

八、 本書ノ唱歌曲中、重音ノ箇所ハ、事情ニヨリ、上部主要旋律ノミヲ採リ、單音唱歌トシテ課スルモ妨ゲナシ。其ノ際ニハ、正規ノ場合ト同一ノ伴奏ヲ附スルコトヲ得。

九、 本書ノ樂譜ニ配當セル歌詞ノ記法ハ、概シテ ^{新訂}尋常小學唱歌ニ準ゼルモ、其ノ間、ナルベク發音上ノ實際ニ適切ナラシメンタメ、更ニ新ナル考慮ヲ加ヘタリ。

一〇、 本書ノ樂曲ハ、概ネ中等諸學校ノ初年級並ビニ青年學校等ニ於テモ使用スルコトヲ得ベシ。

昭和十年三月

文 部 省

目 次

		男子用	女子用
一 若 草	2	一..... 2	一..... 2
二 千 里 の 春	6	二..... 6	
三 羽 衣 (獨唱及び二部合唱)	10		二..... 6
四 小 鳥 よ	18	三..... 8	三..... 14
五 潮	22	四..... 10	
六 初 夏	26	五..... 14	四..... 16
七 小 袖 曾 我	30	六..... 16	
八 蓑 蟲 (二聲輪唱)	32	七..... 18	五..... 18
九 夏 の 曉	36	八..... 24	六..... 24
一〇 月 見 草	40		七..... 28
一一 街 路 樹	44	九..... 28	八..... 32
一二 夕 立 そ そ ぐ (二部合唱)	48	一〇..... 32	九..... 36
一三 山	54	一一..... 36	
一四 野 分	58	一二..... 40	
一五 秋 草	62		一〇..... 40
一六 清 少 納 言	64		一一..... 42
一七 實 の り の 秋	68	一三..... 44	一二..... 46
一八 聖 恩	70	一四..... 46	一三..... 48
一九 明 治 神 宮	72	一五..... 48	一四..... 50
二〇 菊 の 香 (二部合唱)	76	一六..... 52	一五..... 54
二一 我 が 家	80	一七..... 54	一六..... 56
二二 校 庭 に て	84	一八..... 56	
二三 渡 り 鳥	90		一七..... 58
二四 吉 野 の 宮 居	94	一九..... 60	一八..... 62
二五 霰 三 題	96	二〇..... 62	一九..... 64
二六 少女のまとゐ (二部合唱)	100		二〇..... 68
二七 兄 弟 (二部合唱)	104	二一..... 66	
二八 姉 妹	108		二一..... 72
二九 告 別 の 歌 (二部合唱)	112	二二..... 70	二二..... 76

若 草

10.8.5 新編 若草 OP

若
草

♩ = 92

p

一ツカクサ ノノベノ
ニわか く さ は はる の

con Acc.

mp

カナタハ イソモナク スナハラモナ
しとねか くさのかを かぎつつすわ

mf

ク ハテシナキ ウミニテアリ キ
り ゆくりなく うみをはおもふ

X107-1
二

若
草

mp

ウナバラ ノアサニ ユフーベニ
うなばら も はるの ひなれば

ナギサ フクカゼノゴトクニ
わか く さ は なみにもえずも

mf *mp* *rit.*

シホナリヲノベニテキキヌ
かけろふ は うみより たた ん

一、若草

一、若草の野邊のかなたは、

磯もなく、

砂原もなく、

果しなき海にてありき。

海原の朝にゆふべに、

渚吹く

風の如くに、

潮鳴を野邊にて聞きぬ。

二、若草は春のしとねか、

草の香を

かぎつつすわり、

ゆくりなく海をば思ふ。

海原も春の日なれば、

若草は

波に萌えずも、

かげろふは海より立たん。

198.4 1st

千里の春

千里の春

♪ = 80 のびやかに

8va. *loco*

f *mp*

mp のびやかに

ノ モ ヲ
ニ わ が そ
三 ヲ ミ コ

カ モ ミ ド リ ニ モ エ テ ク サ ノ
コ く きやう ど の ほ こ り や ま と
エ テ ハ ル カ ノ カ ナ タ カウ

イ ロ ケ ム ル ガ ゴー ト シ オ ホ ゴ
み づ ぶ ぶ が く が ゴー と し て ふ と
リヤウ ハ セ タ カ ク ノ ビー テ マ ン

千里の春

mp

ラ モ カ ス ミ ソ タ リ テ
リ も は な ミ ソ タ リ テ
シウ ノ ツ チ モ ヤ ハ ラ ギ

ハ テ シ ラ ヌ ハ ル ハ キ タ
ウ く と こ ろ は る は か を
ヒ ロ ビー ロ ト ハ ル ハ ワ タ

1. 2. 3. *mp*

レ リ

レ リ

f *mf*

mf *mf*

三千里の春

一、野も丘も緑に萌えて、
 草のいろ煙るが如し。
 大空もかすみわたりて、
 はてしらぬ春は來れり。

二、わが祖國・郷土の誇、
 山と水畫かくが如し。

千はちやんはかん
 選て
 只、原、や、ら、る、る
 印、か、え

蝶・鳥も花を求めて
 行くところ、春は薫れり。

三、海越えて遙かのかなた、

高梁は背高く伸びて、
 満洲の土もやはらぎ、
 ひろびろと春は渡れり。

1284 木下

羽衣

(獨唱及び二部合唱)

作詞 1949年
作曲 木下

moll
高松(15) 1217年

羽衣

♩ = 92

合唱 mp

ミ ホ ノ マ ツ バ ラ ウ

ラ ウ ラ ト ヒ ハ ハ レ ソ タ ル ソ

ラ ノ ッ ヘ ア マ ツ フ ト メ ノ マ

ヒ ノ ソ デ ア ザ ヤ カ ニ コ ソ ミ

mf 13 1 3 mp

羽衣

エ ニ ケ レ

天女獨唱 p

ア ラ カ ナ シ ヤ マ

ツ ノ エ ダ ノ ハ ゴ ロ モ ウ セ テ カ

ヘ ル ス ベ ナ キ ク モ ノ カ ヨ ヒ チ

mp

チノチノチノチノ

此の曲は、
この調子で、
ソフクヤム

羽衣

Musical score for 'Chinochinochinochi'. It features a vocal line and a piano accompaniment. The score is written in G major and 2/4 time. The piano part includes a 'mf' dynamic marking. The vocal line includes lyrics: エタリト ヒロク ハマノレフ シ

二

招き鳥

羽衣

Musical score for 'Irakawa'. It features a vocal line and a piano accompaniment. The score is written in B-flat major and 4/4 time. The piano part includes 'p' and 'mf' dynamic markings. The vocal line includes lyrics: コロモナクテハ イカニシテ
クモキノハテニ カヘルベキ
いそぎて トクトク カヘセ ニンゲンニ
いそぎて

Si

三

伊豆の舞

羽衣

Musical score for the first system on page 14. It consists of a vocal line in treble clef and a piano accompaniment in bass clef. The key signature has two flats (B-flat and E-flat). The vocal line has lyrics: へ セ ト ヤ サ テ カ へ セ ト ヤ イ. The piano accompaniment features a steady eighth-note bass line with chords in the right hand. There are dynamic markings 'V' and 'V' above the vocal line.

Musical score for the second system on page 14. It consists of a vocal line in treble clef and a piano accompaniment in bass clef. The key signature has two flats. The vocal line has lyrics: ト ヲ シ ケ レ ド サ ラ バ カ ヘ サ ン テ. The piano accompaniment continues with a similar rhythmic pattern. There is a dynamic marking 'mp' above the vocal line.

Musical score for the third system on page 14. It consists of a vocal line in treble clef and a piano accompaniment in bass clef. The key signature has two flats. The vocal line has lyrics: ン ニ ン モ コ コ ロ シ ア ラ バ サ. The piano accompaniment continues with a similar rhythmic pattern. There is a dynamic marking 'V' above the vocal line.

四一

大正一 伊豆の舞

羽衣

Musical score for the first system on page 15. It consists of a vocal line in treble clef and a piano accompaniment in bass clef. The key signature has two flats. The vocal line has lyrics: ラ ニ ヒ ト サ シ マ ヒ ー テ モ ミ セ ヨ. The piano accompaniment continues with a similar rhythmic pattern. There are dynamic markings 'Vmf' and 'mp' above the vocal line.

Musical score for the second system on page 15. It consists of a vocal line in treble clef and a piano accompaniment in bass clef. The key signature has two sharps (F-sharp and C-sharp). The vocal line has lyrics: なごやかに. The piano accompaniment continues with a similar rhythmic pattern. There is a dynamic marking 'mp' above the vocal line.

Musical score for the third system on page 15. It consists of a vocal line in treble clef and a piano accompaniment in bass clef. The key signature has two sharps. The vocal line has lyrics: フ ヤ ゲ イ シ ャ ウ ー ウ イ ノ キ ヨ ク. The piano accompaniment continues with a similar rhythmic pattern.

一五

三、羽衣

合唱 三保の松原、うらうらと

日は晴れわたる空の上。

天津少女の舞の袖、あざやかにこそ見えにけれ。

天女あら、かなしや、

松の枝の羽衣失せて、歸るすべなき雲の通路。

合唱 得たりと拾ふ、濱の漁師、

持歸りてぞ寶にせんと。

天女衣なくては、如何にして雲居のはてに歸るべき。

疾く疾く返せ、人間に着る用もなき羽衣を。

漁師返せとや、さて返せとや。いと惜しけれど、さらば返さん。

天人も、心しあらば、更に一さし舞ひても見せよ。

合唱 舞ふや、霓裳羽衣の曲。

見る見る、影は遠ざかり、

あとに残れる富士の山、うららかにこそ浮かびけれ。

羽衣

Musical score for the first system, including vocal line and piano accompaniment. The vocal line has lyrics: ミ ル ミ ル カ ゲ ハ ト ホ ザ カ リ

Musical score for the second system, including vocal line and piano accompaniment. The vocal line has lyrics: ア ト ニ ノ コ レ ル フ ジ ノ ヤ マ

Musical score for the third system, including vocal line and piano accompaniment. The vocal line has lyrics: ウ ラ ラ カ ニ コ ソ ウ カ ビ ケ レ

12.8.5. 小鳥よ 2322 — 16 — 17

小鳥よ

p $\text{♩} = 66$

コトリ ヨ オマヘハ ウミ カ ラキタノ カ

p

con Ad.

mp

コトリ ヨ オマヘハ ヤマ カ ラキタノ カ

mp

p

キキナレヌ コトリノコエ

p

小鳥よ

mf *mp*

ウミカ ラキ タウー ナ ヤマカ ラキ タウー ナ

mf *mp*

*Ad. * Ad. * Ad. * Ad. * Ad. * Ad. * Ad. * Ad. * Ad. * Ad. **

p *più p*

メヅラシイ コトリノコエ ソナレマツノ

p *più p*

mp *p*

ハヤシニ ハレバレトシター コトリノコエー

mp *p*

四、小鳥よ

小鳥よ、

お前は海から来たのか。

小鳥よ、

お前は山から来たのか。

聞きなれぬ小鳥のこゑ。

海から来たやうな、

山から来たやうな、

珍しい小鳥のこゑ。

磯馴松の林に、

はればれとした小鳥のこゑ。

潮

潮

♩ = 50

mp

mp

一 ハルノヒナレヤヒトリシテ
二 はるのひなれやくりなく

スナヤマノカゲニタタズミケフ
すなやまのうへのぼりてけふ

ハシーモウミノオトキクウミノオ
はしーもおきをながめつうみのお

trem.

p

三三

潮

トキキツツヲレバタツナミハ
と ききつつをれど たつなみは

mp

イトモハゲシクアライソニシロククダケ
いともしづけくあらいそにしろくうたず

mf

テイハカゲニカキモウマレ
もいはかげにかきやうまれ

ン

三三

五、潮

一、春の日なれや、

ひとりして

砂山の陰にたたずみ、

今日はしも海の音聞く。

海の音聞きつつをれば、

立つ波は、いともはげしく、

荒磯に白く砕けて、

礁陰に、牡蠣も生まれん。

二、春の日なれや、

ゆくりなく、

砂山の上のぼりて、

今日はしも沖を眺めつ。

海の音聞きつつをれど、

立つ波は、いともしづけく、

荒磯に白く打たずも、

礁陰に、牡蠣や生まれん。

初 夏

初
夏

♩ = 96

mf

mp

一ゴグツノカゼハサソヤカーニ
 二くさのかかをるののむねに
 三ニヒバリミチノリヤウガハニ
 四けやきのみきのちにとかく

mp *p*

mp

イロアルゴトクナガレキテ
 ひはひろびろとさしわたり
 ッラナルナミキワカバシテ
 しぜんのつよさおもはしむ

mp *f*

二六

7902 X24

初
夏

f

トクワイノソラーバタダカーナタミ
 ひかりとつちのよろこびにい
 ミヅエノカゲモノビヤカニモ
 はやしはさすかふりたれどな

f *Red.* * *Red.* * *Red.* * *Red.* *

rit. *a tempo* *mp*

ユルカギリハアヲキーカナ
 きものまふかげもみゆ
 ユルミドリノイロマシヌ
 つはきたれりあたらしく

rit. *a tempo* *p*

Red. * *Red.* *

二七

六初夏

一、五月の風は、さわやかに

色ある如く流れ来て、

都會の空は、ただかなた。

見ゆるかぎりは青きかな。

二、草の香かをる野の胸に、

日はひろびろとさし渡り、

光と土の喜に

生物の舞ふ影も見ゆ。

三、新墾道の兩側に

つらなる並木、若葉して、

瑞枝の影も伸びやかに、

もゆる緑の色増しぬ。

四、櫟の幹の、地に高く、

自然の強さ思はしむ。

林はさすが舊りたれど、

夏は來れり、新しく。

小袖曾我

へるに 出又打

小袖曾我

♩ = 100

一 ソ ガ ノ ー ジフ ラウ ー ス ケ ナ リ ハ
 二 は は は ー かね て の ち か ひ ゆ 糸
 三 サ ラ バ ー ユル ス ト ヒ ト コ ト バ
 四 は は の ー めぐ み に は ら か ら は

mp

オ ト ウ ト ゴ ラウ ー ラ ト モ ナ ヒ テ イ マ
 お と う と ゴ らう ー を と ほ ざ け て か た
 キ ク ヨ リ ゴ ラウ ー ハ ウ レ シ サ ニ オ ツ
 か た み の こ そ で い た た き て い ざ

f

ヲ ー サ イ ゴ ノ イ ト マ ゴ ヒ ハ
 く ー い な む を ず け な り が あ に
 ル ー ナ ミ タ ヲ フ リ ハ ラ ヒ ト モ
 や ー か り ば の さ つ き ば れ ふ じ

三〇

小袖曾我

(V)

ノ モ ト ラ ズ ー タ ツ ネ ケ ル
 の な さ け に ー と り な し ぬ
 の カ ド テ ノ ー モ ノ が タ リ
 の す そ の に ー た ち む か ふ

付ナレシ
 三折

七、小袖曾我

一、曾我十郎祐成は、
 弟五郎を伴なひて
 今を最後の暇乞ひ
 母の許をぞたづねける。
 二、母はかねての誓ゆゑ、
 弟五郎を遠ざけて
 かたきをむざけて
 兄の情にとりなぬ。
 三、さらばゆるす。と一言葉
 さらばゆるす。と一言葉
 聞きよるす。と一言葉
 落つる涙をふり、
 と落つる涙をふり、
 母の恵みに首途の物語は、
 形見の小袖を同胞は、
 四、いざ見よ、
 富士の裾野に立ち向かふ。

三一

蓑 蟲

(二聲輪唱)

10/8 15 木
374527

頭アサント (4)

mp 軽く
—ミノムシ ミノムシ ミノハ テノモノ

mp 軽く
—ミノムシ ミノムシ ミノハ

mf *mp*

mf *f*
カサガナ イ カサハ ナケレド ミノサヘ アレバ アメガ

mf
テノモノ カサガナ イ カサハ ナケレド ミノサヘ アレバ

mf *f*

mp
フツ テモ ヌレナイ ダラウー ニみのむし

f *mp*
アメガ フツ テモ ヌレナイ ダラウー ニみのむし みのむし

f *mp*

mf
みのむし みのを ほすなら あさがよい つゆは

mf
みのを ほすなら あさがよい つゆは おちても

mf

f
おちても こえだの みのは ちうーに ぶらりと おちない だらうー

f
こえだの みのは ちうーに ぶらりと おちない だらうー

f

mp

三ミノムシ ミノムシ ソトヘ デルニモ デラレナイ

mp

三ミノムシ ミノムシ ソトヘ デルニモ デラレナ

mf

ミドリ モエタツ ワカバノ ナカデ ミノハ イカニモ

mf

イ ミドリ モエタツ ワカバノ ナカデ ミノハ

p

メゲナイ ダラウー 四みのむし みのむし

p

イカニモ メゲナイ ダラウー 四みのむし みのむし どこに

mp

どこにゐるのか こゑがない みのをきたまま

mp

ゐるのか こゑがない みのをきたまま かほさへ

mf

かほさへ たさぬ あきか こないと なかない だらうー

mf

たさぬ あきか こないと なかない だらうー

八、蓑 蟲

一、みのむし、みのむし、
蓑は手のもの、筧がない。
筧はなけれど、蓑さへあれば、
雨が降つても濡れないだらう。

二、みのむし、みのむし、
蓑を乾すなら 朝がよい。
露は落ちて、小枝の蓑は、
宙にぶらりと落ちないだらう。

三、みのむし、みのむし、
そとへ出るにも、出られない。
緑もえたつ若葉のなかで、
蓑はいかにも脱げないだらう。

四、みのむし、みのむし、
どこにゐるのか、聲がない。
蓑を着たまま、顔さへ出さぬ。
秋が来ないと、鳴かないだらう。

夏の暁 *ハート スタカト*

夏の暁

♩=108

mf 軽快に

一 ノ コ レ ル ツー キ ノ カ ゲ フ ミ テ ウ
 二 ま た た く ほー し を り い た た き て つ
 三 ア サ ズ げ の ー し を を う ち ナ ビ キ キ ア
 四 い へ び を い ー そ ぐ を と め り が か か

p

タ フ シ ヲ ー カ モ サ ワ ヤ カ ニ ラ
 ヲ の グ ヒ ノ デ マ フ ミ ラ シ タ ニ ム
 ゴ に そ へ た る し ら ヲ カ リ の コ

mp

ガ ハ ノ ホ ー ト リ ウ シ カ ヘ ル ム
 カ ヒ の を ー か に ツ ま ぐ さ か る さ
 ウ シ オ ヒ ー ツ の カ へ こ ル コ かに フ
 ほ へ ま ー み の に こ や か に あ

con Acc. Allegro

三六

夏の暁

mf *f*

ラ ノ ヲ ノ コ ガ ム ネ ノ ヘ ヲ フ
 と の を と と め が ま へ が み ヲ フ
 し の は こ び も い そ い そ と せ

mf *f*

ク ヤ ア サ カ ゼ ソ ヨ ー ソ ヨ ト ハ
 く や あ さ か ぜ そ よ ー そ よ と は
 い き あ ふ る る あ さ ー ぼ ら け は

p

タ ラ ク ミ ニ ハ ウ レ ヒ ナ シ
 た ら く み に は う れ ひ な し
 た ら く み に は の ゴ み あ り

なごやかに

三七

九、夏の曉

一、

残れ月影踏みて、
歌ふ唱歌もさわやかに、
小川のほとり牛飼へる
村の男の子が胸の邊を
吹くや朝風そよそよと。
働く身には憂なし。

二、

またたく星を戴きて、
露の白玉に踏しだき刈る
向かひ岡に前髪を、
里の少女が髪を、
吹くや朝風そよそよと。
働く身には憂なし。

三、

朝食の煙うちなびき、
仰ぐ日の出の麗かに、
小牛追ひつ歸る子が、
吹くや口笛勇ましく、
生気溢る朝ぼらけ、
働く身には望あり。

四、

家路を急ぐ少女が、
籠に添へた白百合の、
にほへるまみのこやかに、
足の運びもいと、
生気溢る朝ぼらけ、
働く身には望あり。

1086 新編

月見草

月見草

mf $\text{♩} = 100$

mf $\text{♩} = 100$

mf

dim.

mf

mf

一ユフ 一ギリ コ 一メシ ク サヤマ ニ ホ ノ カニ
ニツ きかげし 一ろく か ぜゆら ぎ ほ の かに

四〇

164
1086

217 新編

月見草

p (V)

サ 一キヌ キ ナルハ ナ ミ ヤコノ ト モト
さ 一きぬ き なるは な み やこに い ます

p

mp *cresc.* (V)

コ ゴノ ナ ヅ タ フリク ラ シン
お もひで の と もにおく らん

mp *cresc.*

f *poco rit.* (V)

オ モヒテ ノ ハ ナヨハ ナ 一ヨ
に ほひこ め は なよは な 一よ

f *poco rit.*

mf a tempo (V)

ソ ノ ナモ ュ カシツ キ 一ミサウ 一
そ の なも い としつ き 一みさう 一

a tempo *mf*

1086
新編

四一

一〇、月見草

一、

ほ 夕霧の かに 咲きぬ、 黄なる 花に 暮しし 思出の

二、

ほ 月の影 白く、 風ゆるぎ、 黄なる 花に 贈らん、 句こめ。

静友風 都の影 けよ清く、 友よ、 袂かろし。 月見草 花丘に 咲きぬ。

その花よ、 名も、 花よ、 いと、 し、 月見草

その花よ、 名も、 花よ、 思出の 友に 贈らん、

アリガト

か せきーよ く ー た も と かーろ し

と もよと も ーよ き た れを か に ー

し づけく も つ きみさう ー

は な さ き ぬ ー

街路樹 ハーブ スカット

街路樹

$\text{♩} = 100$ *poco rit.*

mf cre - - scen - - do - - *poco rit.*

mf a tempo

一 ア ツキ ヒザ シ ウケテ カ ゲラ ヒト
二 し ろき ほこり おひて の べの とり

mf a tempo

mf

ニ ア タ フ ガ イロ ジュ ガ イロ ジュ シ ゲー レ
を し た ふ が いろじゆ が いろじゆ の びー よ

mf

f のびのびと

ア ラ ク ヒ ロ ク シ ゲー レ
た か く な が く の びー よ

f

四四

街路樹

p ツ ラ ク レ テ ツ キ ノ ボ リ ホ シ ミ チ テ
mf く も い で て か ぜ は し り き た る ら し

p
(mf)

ツ ユ フ カ シ *mp* ネ ム レ ガ イ ロ ジ ユ
よ る の あ め *f* ふ れー や が い ろ じ ゆ

mp

p ハ ラ タ レー テ シ タ タ ル
mf え た え たー を お ち く る

p
(mf)

ツ ユー ハ ヨ キ ツ ユ ゾ
あ めー は よ き あ め ぞ

四五

二、街路樹

一、暑き日ざし 受けて、

影を人にあたふ

街路樹、街路樹、しげれ、

青く、廣く、しげれ。

空暮れて 月のぼり、

星満ちて 露ふかし。

ねむれ、街路樹、葉を垂れて。

したたる露は よき露ぞ。

二、白き埃 負ひて、

野邊の鳥をしたふ

街路樹、街路樹、のびよ、

高く、長く、のびよ。

雲いでて 風走り、

來るらし、夜の雨。

振れや、街路樹、枝枝を。

おちくる雨は よき雨ぞ。

夕立そそぐ

(二部合唱)

スソソソ スソソソ

夕立そそぐ

♩ = 69 *スソソ*

I
II

p *f* *p*

mp 軽快に

一ライヒトシキリカゼヒトワタリ
ニきぎざわめきてせみなきやみて

mp 軽快に

一ライヒトシキリカゼヒトワタリ
ニきぎざわめきてせみなきやみて

mp leggiero

四八

夕立そそぐ

ク ロ ク モ ク ツ レ ソ ラ ヲ オ ホ ヒ
く ろ あ り ぬ れ て み ち を ま よ ひ

ク ロ ク モ ク ツ レ ソ ラ ヲ オ ホ ヒ
く ろ あ り ぬ れ て み ち を ま よ ひ

ナ ナ メ ニ ト ビ テ ユ フ ダ チ ソ ソ グ
い け の も た た き ゆ ふ た ち そ そ ぐ

ナ ナ メ ニ ト ビ テ ユ フ ダ チ ソ ソ グ
い け の も た た き ゆ ふ た ち そ そ ぐ

四九

ヤッテノカゲヲイデコシフトキガマ
いづこにゐたるちひさきこひのむれ

ヤッテノカゲヲイデコシ
いづこにゐたるちひさき

marcato

rit. 一段とおそく

フトキガマ ヨロコビテ リヤウテヲツキテ
こひのむれ よろこびて ひたへみぎへ

rit. 一段とおそく

フトキガマ ヨロコビテ リヤウテヲツキテ
こひのむれ よろこびて ひたへみぎへ

rit. *colla voce* *p*

f a tempo

ウゴカザルセヲタタキタタキ
およぎゆくせをたたきたたき

f a tempo

ウゴカザルセヲタタキタタキ
およぎゆくせをたたきたたき

f a tempo

ユフダチソソギソソグ
ゆふだちそそぎそそぐ

ユフダチソソギソソグ
ゆふだちそそぎそそぐ

p

二、夕立そそぐ

一、雷 一しきり、

風 一わたり、

黒雲くづれ、空をおほひ、

斜に飛びて 夕立そそぐ。

八つ手の陰を 出来し太き藁、

(太き藁)

よろこびて、 両手をつきて、

動かざる背をたたき、 たたき、

夕立そそぎ、 そそぐ。

二、木木 ざわめきて、

蟬 なきやみて、

黒蟻ぬれて 路を迷ひ、

池の面たたき、 夕立そそぐ。

いづこにゐたる、 小さき鯉の群、

(鯉の群)

よろこびて、 左へ、 右へ、

泳ぎ行く背をたたき、 たたき、

夕立そそぎ、 そそぐ。

4 山

山

♩ = 108

mf *mf* *f*

mp

一 ア アヒン ガシノ オ ホヅ ラ ニ
二 あ あらく じつ の い ろう け て

mp

mf

ア マソソリ タ ッ ハ ルノ ヤ マ
を をしくそ び ゆ あ きの や ま

mf

五四

山

f

ネ グラヲ イ デーシ ア ラワ シー カ
を さなき ひ よーり あ ふぎ みー る

f 1 2 1 1 2 1

mf

ミ ネノ イ ハ ホーヲ ト ビタ チ テ
み ねの い は ほーは わ かう ど に

mf

mf

ク モノ カ ナ タニ カ ケリ ユ ク
た かきり さう ーを さ づけ た り

mf 3 1 2 1

五五

マ-4 風 (レガ-トナリ)

モ ロ ビ ト ア フ ゲ シ ノ ノ メ ノ
も ろ び と あ ふ げ ゆ ふ - や け の

f *mf*

f はぎれよく *mf*

キ バ ウ - ニ ハ ユ ル ハ ル ノ ヤ マ
へ い わ に は ゆ る あ き の や ま

f *mf* *mp*

口笛の様に

poco rit.

poco rit.

一三、山

一、 ああ、東の 大空に
天そそり立つ、春の山。

ねぐらを出てし 荒鷲か、
峯の巖を 飛立ちて、雲のかなたに 翔り行く。

諸人あふげ、しののめの
希望に映ゆる 春の山。

二、 ああ、落日の色うけて
英雄しく聳ゆ、秋の山。

幼き日より あふぎ見る
峯の巖は、若人に 高き理想を 授けたり。

諸人あふげ、夕焼の
平和に映ゆる 秋の山。

野 分

野
分

♩ = 100

mf

右
左

f

Reo. *

mf *mp*

一 フ ケ フ ケ ノ ワ ケ 一 ヲ
二 フ け フ け の わ け
三 フ ケ フ ケ ノ ワ ケ

mf *mp*

Reo. *

mf

カ ノ ス ス キ ヲ シ ナ ビ ケ キ
ま い ね む ー り の ヲ め さ め ぬ ま
ク テ サ ヘ ー ギ ル モ ノ ハ ミ ナ ツ

mf

10.8.5
ホト

野
分

mf

ギ ノ コ ズ ー エ ヲ ユ ス ブツ テ フ
ど の と び ー ら を ヨ り た た き ふ
ヨ イ チ カ ー ラ ニ ウ チ ナ ビ ケ フ

mf

f

ケ フ ケ ノ ワ ケ ー オ
け け の わ け の ー ひ
ケ フ ケ ノ ワ ケ

f

Reo. *

mp

モ ー ヒ タツ テ ハ ヤ メ ラ レ ヌ
と ー の こ こ ろ に て ん ね ん の
ラ ト ブ ト リ ノ ツ バ サ サ ヘ

ff

ヲ ト コ ノ ー ヤ ウ ー ナ イ キ ホ ヒ テ
ち か ら の ー 狂 ど を み せ て ひ や
タ ワ マ ス ー ホ ト ニ フ セ キ マ ク レ

ff

一四、野分

一、吹^ふけ、吹^ふけ、野^のわけ、

丘^ののすすきを 押^おしなびけ、

木^き木のこずゑを ゆすぶつて。

吹^ふけ、吹^ふけ、野^のわけ、

おもひたつては やめられぬ

男^{をとこ}のやうな いきほひで。

二、吹^ふけ、吹^ふけ、野^のわけ、

あまい眠^{ねむ}の 夢^{ゆめ}さめぬ

窓^{まど}のとびらを ゆりたたき。

吹^ふけ、吹^ふけ、野^のわけ、

人^{ひと}のところに 天^{てん}然^{ぜん}の

力^{ちから}のほどを 見^みせてやれ。

三、吹^ふけ、吹^ふけ、野^のわけ、

ゆくてさへぎる ものは、みな、

強^{つよ}い力^{ちから}に うちなびけ。

吹^ふけ、吹^ふけ、野^のわけ、

空^{そら}飛^とぶ鳥^{とり}の つばささへ、

たわますほどに 吹^ふきまくれ。

秋 草 (秋 - 草)

秋
草

♩ = 108

mp

一 ナ カ ル ル ク モ ノ イ ロ ニ サ ヘ
二 や ま ち を ヲ け ば を み な ヘ し
三 カ ハ ラ ニ ツ ツ ク イ チ メ ン ノ
四 お も へ ば ふ か き て ん ね ん の

mf

ア キ ハ キ ニ ケ ー リ ノ ニ ヤ マ ー ニ
あ き の ひ か り を て り か へ ー す
あ ス コ キ モ ヤ が ー テ ホ ニ イ デ ー ば
こ ろ な り け り あ き く れ ー は

秋 草 (秋 - 草)

秋
草

p mf

キ キウー イ ト ハーギ フ チバカ マ
す がた を か しーき わ れも かう ー
テフ ーノ マ ヒ ユーク カ ナタ ニ ハ
す がた や さ しーき は なく さ の

mp

カ ゼ ニ ソ ヨ ギ テ サ キ ャ メ ヌ
ち さ き の ぎ く の め て た さ よ
ア カ キ ナ デ シ コ ム レ サ ケ リ
い ろ も し づ け き ふ ぜ い あ

1. 2. 3. 4.

一、流るる雲の色にさへ、
秋は来にけり、野に、山に。
桔梗・いとほき・ふぢばかま
風にそよぎて 咲きそめぬ。
二、山路をゆけば、をみなへし
秋の光を 照りかへす。
姿をかしき われもかう、
小さき野菊の めてたさよ。
三、河原につづく 一面の
薄もやがて 穂に出でん。
蝶の舞ひゆく かなたには、
あかきなでしこ、群咲けり。
四、思へばふかき 天然の
こころなりけり、秋來れば、
姿やさしき 花の
色も静けき 風情あり。

一五、秋 草

清少納言

清少納言

♩ = 84

p

mp

一 カウ 一 ロホウ 一 ノ 一 ユ
 ニ ま く ら の さう 一 し を
 ミ ッ タ ニ ナ ア ル 一 モ

mp

v p

キ ハイ カ ニ ト ノ タ マ ハ ス キ
 り に ふ れ つ つ か き つ け し し
 ト ス ケ ノ コ ト ウ マ レ キ テ ヅ

p

六四

清少納言

v mf

サ キ ノ ミ ヤ ノ ミ コ ト ハ ニ ミ
 きょう ー の ふ で の あ た ら し く い
 タ コ ソ ヨ マ ネ シ ュ ン サ イ ノ ナ

mf

v f

ス ラ カ カ ゲ テ サ イ ガ ク ノ タ
 ろ も に ほ ひ も な ら ひ な き た
 カ ニ マ ジ リ テ イ ヤ サ ラ ニ タ

f

v mf

カ キ ホ マ レ ラ ノ コ シ タ リ
 か き ほ ま れ を つ た へ た り
 カ キ ホ マ レ ハ カ ガ ヤ キ ス

mf

六五

一六、清少納言

一、香爐峯の

雪はいかにとのたまはす
きささきの宮のみ言葉に、
御簾をかかげて、才學の
高きほまれをのこしたり。

二、枕草子

をりにふれつつ書きつけし、

詩興の筆の新しく、

いろもにほひもならびなき、
高きほまれを傳へたり。

三、歌に名ある

元輔の子と生まれ来て、
歌こそ詠まね、俊才の
中にまじりて、いやさらに
高きほまれは輝きぬ。

實のりの秋

實のりの秋

♩. = 80

mf 生々と

— ミノリ ノ アキ ハ キタ リ ヌ — ユ タ ケ
ニ たり ほ の いね は こ が ね に — な み う

mp

ク モ — カ ド タ ノ ア タ リ ヨ ロ コ
て り — み わ た す た の も か ち ど

六八

實のりの秋

1. *f* *rit.*

ビ ノ コ エ ノ ウ ツ マ キ ウ ツ — マ ク —
き は た か く と ど ろ

2. *f* 一段と速く

き と ど — ろ く —

2. *più allegro*
f *più f* *ff*

一、實のりの秋は
來りぬ、ゆたけくも。
門田のあたり、
よろこびの聲の
うづまき、うづまく。

二、垂穂の稲は、
黄金に波うてり。
見わたす田の面、
かちどきは高く
とどろき、とどろく。

一七、實のりの秋

六九

聖 恩

Handwritten signature

聖
恩

p $\text{♩} = 88$

— ア マ ッ ヒ — ノ テ ラ サ ン キ ハ ミ
ニ と ほ き よ — の つ た ハ な れ ど も
三 タ カ キ オ — ン フ カ キ メ グ ミ ラ

mp

フ リ ア — フ — グ チ ヨ ダ ノ ミ ヤ キ
か に の — こ — る お ん し の み け し
ア サ ユ フ — — ニ カ ウ — ム ル ワ レ ラ

mf

オ ホ キ ミ ハ カ ミ ノ ミ ス エ — ズ
お み と し て き み に さ さ ぐ — る
ヨ ロ ヅ ヨ ニ ス メ ラ ミ カ ド — ノ

七〇

f *mf* *rit.*

カ シ コ — シ ヤ ッ ヤ マ ヒ マ ツ レ
ま ご こ — ろ の た め し と な れ り
ミ サ カ — エ ヲ コ ト ホ ギ マ ツ レ

聖
恩

三 二 一

御^み 萬^{よろ} 朝^あ 高^{たか} ま 臣^み 香^か 遠^{とほ} 畏^{かしこ} 大^{おほ} ぶ 天^{あま}
 榮^{さかえ} 代^よ 夕^{ゆふ} き ご と に き し 君^{きみ} り つ
 を に に 恩^{おん} こ し 殘^{のこ} 世^よ や は 仰^{おほ} 日^ひ
 こ か ろ て る の 神^{かみ} げ の 照^て
 と す う 深^{ふか} の 君^{きみ} 恩^{おん} 傳^た 敬^{うや} の 照^て
 ほ め む き た に 賜^{たま} な ひ 御^み 千^ち ら
 ぎ ら る 惠^{めぐみ} め 捧^た の れ ま 裔^い 代^よ さ
 ま み 我^{われ} を し ぐ 御^み ど つ ぞ 田^た ん き
 つ か 等^ら と る 衣^い も れ。 の き
 れ。 の な れ り。 宮^{みや} は
 の 居^い み

一八 聖 恩

七一

明治神宮

明治神宮

$\text{♩} = 100$

mf

一 ア サ ヒ ノ ゴ ト ク タ ダ シ ク ツ ヨ ク
 ニ つ き ご と ふ か く と し ご と ひ ろ く
 ミ タ フ ー ト キ タ カ キ イ ヤ シ キ ヒ ク キ

$\text{♩} = 100$

mf

f

ヒ ト ス チ ナ ホ ク ヒ ラ ケ ス ス ム
 よ ろ こ ひ よ も に あ ふ れ み ち て
 ク ニ タ ミ ナ ベ テ ヒ ト ツ マ ナ ゴ

f

mf

ヒ イ ツ ル ミ ク ニ ノ ヒ カ リ ラ ツ ト ニ
 か い こ く に ほ ん の ゆ う ー ひ の も と ゐ
 ア ハ レ ミ ハ グ ク ミ ミ チ ビ キ タ マ ヒ

v.f

f

mf

七二

明治神宮

ff

ハ ナ チ タ マ ヒ シ オ ホ ー ミ カ ド
 か た め た ま ひ し お ほ ー み か ど
 チ カ ラ タ マ ハ ル オ ホ ー ミ カ ド

mf

p

シ ツ マ リ マ シ マ ス ヨ ヨ キ ノ ミ ヤ
 し づ ま り ま し ま す よ よ き の み や
 シ ツ マ リ マ シ マ ス ヨ ヨ キ ノ ミ ヤ

vmp

mp

p

mf

ユ カ シ カ シ コ シ ヨ ヨ ー キ ノ ミ ヤ
 ヲ か し か し こ し よ よ ー き の み や
 ユ カ シ カ シ コ シ ヨ ヨ ー キ ノ ミ ヤ

poco rit.

mf

poco rit.

七三

一九、明治神宮

一、朝日の如く正しく、強く、
 一すぢ直く開け進む
 日出づる御國の光を夙に
 放ちたまひし大帝
 しづまりまします代代木の宮
 床し、畏し、代代木の宮
 二、月ごと深く、年ごと廣く、
 よろこび四方に溢れ満ちて、

海國日本の雄飛の基
 固めたまひし大帝
 しづまりまします代代木の宮
 床し、畏し、代代木の宮
 三、貴き、高き、賤しき、低き
 國民なべて一つ愛兒
 あはれみ、はぐくみ、導きたまひ、
 力賜る大帝
 しづまりまします代代木の宮
 床し、畏し、代代木の宮

菊の香

(二部合唱)

菊の香

♩ = 92

♩ = 92

mp

mp *mf*

一 ソ ラ キ ヨ ラ カ ニ ス ミ - ソ タ ル - - ア
 二 あ と に は つ づ く は な - も な く - - ひ
 三 ソ ガ シ キ シ マ ノ ク ニ - ガ ラ モ - - キ

mp *mf*

p

キ ノ マ - ハ リ ニ サ キ - イ テ テ コ
 と り ひ - さ し く に ほ - ひ つ つ お
 ヨ キ カ - マ リ ニ フ ク - マ レ テ チ

p

七六

菊の香

mp

コ - ロ シ ヅ カ ニ ヒ - ト - ノ ヨ ノ チ
 く - は つ ゆ し も か - は - れ ど も か
 ヨ - ニ ヤ チ ヨ ニ カ - キ - リ ナ キ ヨ

mp

mf

リ サ ヘ ス - エ ヌ キ ク - ノ ハ ナ
 は ら ぬ い - ろ の き く - の は な
 ハ ヒ ラ ノ - ブ ル キ ク - ノ ハ ナ

mf *mp*

七七

二〇、菊の香

一、空清らかに澄みわたる

秋の終に咲きいでて、

心しづかに、人の世の

塵さへ据ゑぬ菊の花。

二、後にはつづく花もなく、

ひとり久しく匂ひつつ、

置くは、露霜かはれども、

かはらぬ色の菊の花。

三、わが敷島の國がらも、

清き薫にふくまれて、

千代に、八千代に限りなき

齡を延ぶる菊の花。

我が家

legro rit

我が家

♩ = 72

mp *cresc.* *f* *dim.*

*Red. * Red. * Red. * Red. * Red. * Red. * Red. **

mp (V) *mf* *p*

一ツが イヘハ マツ シクモ タラハ スコト ナク ムツ
 ニわか いへは なに ごとも ころを あはせて わさ
 ミツが イヘハ ナツ フユモ ヒモヨ モオダシク スコ

mp *mf* *p*

*Red. **

(V) *mf cresc.*

マシク タノシキ イヘ ナーリ アシ
 はげむ たのしき いへ なーり ヨふ
 ヤカニ タノシキ イヘ ナーリ チチ

mf cresc.

我が家

(V) *f*

タニハ ホシカゲ アフーギ ハタケ ニイデー テヤ
 べには つきかけ ふみて いへる にかへり い
 ハハノ コトバヲ マモリ チカラ ヲアハセ シ

f

*Red. * Red. * Red. * Red. * Red. **

mf *mp*

スラ ケー ク ヒーゴ トスーゴ ーセーリ
 ち ちー の つーか れやーす ーめーつ
 タ シミ ーテ トーモ ニハ ータ ーラ ーク

mf *mp*

*Red. * Red. * Red. * Red. * Red. **

二、我が家

一、

我が家は、貧しくも、
足らぬ事なく、

むつまじく

たのしき家なり。

朝

には

星

かげ

あ

ふ

ぎ

安

ら

け

く

日

毎

す

ご

せ

り。

二、

我

が

家

は、

何

事

も

業

は

げ

む

心

を

あ

は

せ

て

た

の

し

き

家

な

り。

夕

に

は、

月

か

げ

ふ

み

て

一

日

の

疲

や

す

め

つ。

三、

我

が

家

は、

夏

・

冬

も、

日

も、

夜

も、

お

だ

し

く、

す

こ

や

か

に、

父

母

の

言

葉

を

守

り、

た

の

し

き

家

な

り。

力

を

あ

は

せ、

親

し

み

て

共

に

は

た

ら

く。

校庭にて

校庭にて

♩ = 88

f leggiero

p

cresc.

f

p 軽快に

ユ タ ケ キ ハ ル ノ ア サ ヒ ヲ ア ビ テ イ マ ー
ニ さ や け き あ き の ゆ ふ ひ の か げ に と も ー

p

八四

校庭にて

(V)

ゾ ヲ ド ル ソ カ キ イ ノ ー ナ
と か た る こ こ ろ し づ ー か

fp

p 柔かに

ア カ ヲ ア カ ヲ マ ク ル ナ カ テ ヤ
み よ や け ふ も く れ ゆ く そ ら を

tr

(V)

ツ ケ ヤ フ セ ゲ ソ レ シ ロ シ ロ ヲ
ゆ め と す ぎ ぬ わ れ ら の や と セ

tr

八五

校庭にて

や、重く *mf* *cresc.* *f*

キ ヨ キ チ シ ホ ハ ホ ホ ニ モ エ テ
を さ な き お も ひ で む ね に わ さ て

p 軽く柔かに (V)

タ マ ヲ ケ タ マ ケ ル ヲ シ ヘ ノ ニ ハ
ま ど と ち ひ と な き か う し や の ほ と

mf *f*

ニ ク ワ ン セ イ ア ガ レ バ コ ズ エ
り う た ご ゑ は な て ば こ ず ゑ

八六

校庭にて

(V)

ニ ヒ ビ キ マ ン テ イ ミ ル ミ ル
に ひ び き き ん せん ひ ら ひ ら

p

ハ ナ フ ブ キ
い て ふ ち り

p *mf* *ff*

八七

三、校庭にて

一、ゆたけき春の朝日を浴びて、
今ぞ躍る、若き命。

赤よ、赤よ、負くるな、勝てや。

突けや、防げ、それ、白、白よ。

清き血潮は頬にもえて、

球受け、球蹴る、教の庭に、

歓聲あがれば梢にひびき、

満庭見る見る、花吹雪。

二、さやけき秋の夕日の影に、

友と語る、こころ静か。

見よや、今日も暮れゆく空を。

夢と過ぎぬ、われらの八年。

幼き思出胸にわきて、

窓閉ぢ、人なき校舎のほとり、

歌声放てば梢にひびき、

金扇ひらひら、銀杏散る。

11826 18

渡り鳥

♩ = 80

mp *p*
con Acc.

mp

一 ヨ フヒニ ツギテ ワタリクール
 二 いまおほぞらを わたりきて
 三 ナホユクサキハ ハルカナーリ
 四 *p*よをひにつぎて さむぞらーを

mp *p*
con Acc.

mf

フ ユノ ハ ジ メ ノ ヲ タ リ ト リ チ
 し ば し や す ら ふ ひ ま も な く ち
 ト ホ ク ト ビ コ シ ソ ラ ノ タ ビ チ
 ふ ヲ の は じ め の わ た り ど り *mp*ち

mf *mp*

mp

サ キ ツ バ サ モ ス コ ヤ カ ニ イ
 さ き ツ バ サ モ か ヘ リ み て い
 さ き ツ バ サ モ ツ カ レ ニ キ イ
 さ き ツ バ サ モ か ろ や か

1. 2. 3. *mp*

1. 2. 3. *mp*

con Acc.

con Acc.

p

ク ヤ マ カ ハ ヤ ス ギ テ ケ シ
 く ひ の た び や お も ふ ら ん
 ク ト モ ガ ラ ト ハ グ レ ツ ツ

4. *p*

4. *p*

p

づまきながらわたーりゆ

一段と速く

rit.

rit.

più mosso

p

più p

pp

Red. 5

Red. *

Red. *

三、渡り鳥

一、 夜を日につぎて 渡り来る、
 冬のはじめの 渡り鳥
 小さき翼も すこやかに、
 幾山川や 過ぎてけん。

二、 今、 大空を 渡り来て、
 しばしやすらふ ひまもなく、
 小さき翼を かへりみて、
 幾日の旅や 思ふらん。

三、 なほゆくさきは 遙かなり。
 遠く飛来し 空の旅、
 小さき翼も つかれにき、
 幾友がらと はぐれつつ。

四、 夜を日につぎて、 寒空を、
 冬のはじめの 渡り鳥
 小さき翼も 渦まきながら 渡りゆく。

吉野の宮居

吉野の宮居

♩ = 80

ハ ナ ノ イ ロ ホ コ レ ド モ ハ レ ヤ ラ ヌ オ ホ ミ ウ タ
つ き の か ほ さ ゆ れ ど も か き く も る あ め の し た

メ グ ル シ ュ ン ジ ャ - ゴ ジ フ - シ ナ
ニ つ も る せ い さ う - ご じ ふ - し ち

バ ン ジ ャ - ノ キ ミ カ シ コ ク - モ
ち ゅ う - せ つ の し ん つ ぎ つ ぎ - に

ナ ヤ マ セ タ マ フ ヨ シ ノ ヤ マ
み ま か り う せ ぬ よ し の や ま

吉野の宮居

ア ア ハ レ ヤ ラ ヌ オ ホ ミ ウ タ
あ あ か き く も る あ め の し た

二四、吉野の宮居

一、めぐる春秋 五十七、
萬乗の君 かしこくも
なやませ給ふ、吉野山。

花の色 ほこれども、
はれやらぬ 大御歌。
はれやらぬ 大御歌。

二、つもる星霜 五十七、
忠節の臣 つぎつぎに
身まかり失せぬ、吉野山。

あ、
かきくもる 天の下。
かきくもる 天の下。
あ、
かきくもる 天の下。

霰三題

スリカント
内二八二カ
42ハニニ743

♩ = 144

108.6 18

mp

mf 軽快に

一 ヒ サ シ ヲ タ タ ク オ ト タ カ ク
二 お ほ ぞ ら く ら く か せ う な り
三 (ム) (ラ) ヨ リ ム ラ ヘ ヒ ネ モ ス ヲ

mf

イ ノ チ ア ル ゴ ト アー ラー ソ ヒ テ
く も の う へ な る くー にー ば ら に
テ ブ リ ア シ ズ リ オー モー シ ロ ク

ハ ネ テ ラ ド リ テ ハ チ ウ エ ノ
お ぞ や い く さ の は じ ま り て
サ ル マ ハ シ テ ヲ ド ラ セ テ

mp オ モ ト ノ ハ ト ハ ニ ハ サ マ リ テ
mf た け な は な り と や そ れ た ま の
mp ツ カ レ テ カ ー ヘ ル サ ル ヒ キ ノ

mp
(mf)
(mp)

タ タ ヒ ト ツ ブ ガ ア ケ ノ ミ ニ
と ひ くる ー ご と く ち る ご と く
セ ニ サ ム ー ザ ム ト ネ ム リ ヲ ル

mf フ ト ナ ラ ビ タ ル ア ラ レ カ ナ
い ま ふ り し き る あ ら れ か な
サル オ ド ロ カ ス ア ラ レ カ ナ

mf *f*

二五、霰三題

一、

命いのちあるとごとく音ね高く、
命いのちあるごとく争あそひて、

鉢はち植うゑの葉はと葉はに
鉢はち植うゑの葉はと葉はに

ふたと並ならびたが、紅あけの實みに
ふたと並ならびたが、紅あけの實みに

二、

大おほ空ぞらく、風かぜうなり、
大おほ空ぞらく、風かぜうなり、

始はじめおそや、戦いくさの
始はじめおそや、戦いくさの

三、

今いま飛と來きる如ごとく、
今いま飛と來きる如ごとく、

村むらより村むらへ、ひねもすを
村むらより村むらへ、ひねもすを

猿さる背せに寒さむす、
猿さる背せに寒さむす、

少女のまとお

(二部合唱)

シカート

少女のまとお

♩ = 69 *mp*

I
一 オ ナ ジ ヲ ト メ ト ウ マ レ キ テ
二 む ね に あ ふ る る は な の ヲ ー め
三 ユ ク テ ハ ル ケ キ ヨ ノ ナ カ ー ニ つ
四 お な じ お も ひ に う た ひ つ

II
一 オ ナ ジ ヲ ト メ ト ウ マ レ キ テ
二 む ね に あ ふ る る は な の ヲ ー め
三 ユ ク テ ハ ル ケ キ ヨ ノ ナ カ ー ニ つ
四 お な じ お も ひ に う た ひ つ

mp

mf *mp*

コ コ ロ ノ ア ヘ ル ト モ ダ チ ト
の ゴ み に み て る ヲ ク ス 忍 の
カ タ ミ ノ ミ チ ハ ケ ハ シ ク モ
あ ふ げ ば う か ぶ あ を ぐ も も

mf *mp*

コ コ ロ ノ ア ヘ ル ト モ ダ チ ト
の ゴ み に み て る ヲ ク ス 忍 の
カ タ ミ ノ ミ チ ハ ケ ハ シ ク モ
あ ふ げ ば う か ぶ あ を ぐ も も

mf *mp*

少女のまとお

♩ = 69 *mp* *rit.*

シ ヅ カ ニ カ タ リ ア ソ ビ ウ ル
か な た の そ ら を お も ふ に も
テ ニ テ ヲ ツ ナ キ タ ス ケ ン ト
ひ か り を そ へ て し た し げ に

mp *rit.*

シ ヅ カ ニ カ タ リ ア ソ ビ ウ ル
か な た の そ ら を お も ふ に も
テ ニ テ ヲ ツ ナ キ タ ス ケ ン ト
ひ か り を そ へ て し た し げ に

mp *rit.*

mf *a tempo*

ケ フ ー ノ マ ト キ ノ ウ レ シ サ ヨ
わ か き い の ち は た の し き に
カ タ ル マ コ ト ノ タ ノ モ シ サ
け ぶ ー の ま と お を い は ふ ら し

mf *a tempo*

ケ フ ー ノ マ ト キ ノ ウ レ シ サ ヨ
わ か き い の ち は た の し き に
カ タ ル マ コ ト ノ タ ノ モ シ サ
け ぶ ー の ま と お を い は ふ ら し

mf *a tempo*

二六、少女のまとも

一、おなじ少女と生まれ来て、

心のあへる友だちと、

静かに語り遊び得る、

今日のまとのうれしさよ。

二、胸にあふるる花の夢、

望に満てる行末の

かなたの空をおもふにも、

若きいのちは楽しき。

三、行手はるけき世の中に、

互の道はけはしくも、

手に手をつなぎ助けんと、

語るまことのたのもしさ。

四、同じおもひに歌ひつつ

仰げば浮かぶ青雲も、

ひかりを添へて親しげに

今日のまとのをいはふらし。

兄弟

(二部合唱)

兄弟

♩ = 58

mf

Red. * Red. * Red. * Red. * Red. *

p

弟カヘリミル サギリ ノカドニ
兄かたをか の さぎり のはたに

p

Red. * Red. * Red. *

* Red. * Red. *

カ スミツ ツ タ ツ カゲハ ハハヨ
か すみつ つ く は ふるは ちちよ

Red. * Red. *

104

兄弟

mp ♩ = 88 合唱 *f*

ワレヲオク ル コ
あさよりはげむ さ

mp

f

Red. * Red. * Red. * Red. *

mf

ノアイトチカラニイキテ タ
きはひもなみたもともに ひ

mf

cresc.

ラチネノオホキミキヨリ
としなみおひしわれらの

cresc.

105

エダツケシハラカラナレーヤ
のびのびつほづえとなりて

ソノエダニハナノサカズバ
そのえだにはなをかざらん

ソノハナノアダニチリナハ
そのはなにみをばむすはん

二七、兄弟

弟かへりみる
狭霧の門に、
立つ影は母よ、
我等を送る。

兄片岡の狭霧の畑に、
かすみつつ鉄振るは父よ、
朝より勵む。

この愛と力に生きて、
この枝に分けしはらからなれや。
垂乳根の大きき幹より、
その枝に花の咲かずば。

その花のあだに散りなば。

さきはひも、涙も、
我等の、伸び伸びつ秀枝となりて、
ひとしなみ生ひし、
その枝に花をかざらん。
その花に實をば結ばん。

姉 妹

姉
妹

♩ = 80

♩ = 80

p *f* *mp*

Red. *

p

— モ モ ノ ハ ナ サ ク
ニ よ め な つ み あ ふ

pp *p*

cresc.

ヒ ナ マ ッ リ ハ ル サ ン グ ヲ ッ ノ
く さ づ つ み は や ゆ ふ — ぎ り の

cresc.

all.

姉
妹

p

マ ト チ カ ク ア ネ ト ヨ ビ
こ め た れ ば あ ね と よ び

p

mf

イ モ ト ト ヨ ビ テ ム ツ マ シ ク
い も と と よ び て か た り つ つ

mf

f

メ デ ッ ツ ヒ ナ ヲ カ サ リ ケ リ
て を と り あ ひ て か へ り け り

f

姉
妹

mf *rit.* 稍ゆつくりと *rit.* *p* *mf* Tempo I *pp*

ア ア コ コ ロ ヤ サ シ ア ネ イ モ ト イ ク タ ビ
あ あ こ こ ろ や さ し あ ね い も と い く た び

mf *rit.* 稍ゆつくりと *rit.* Tempo I *pp*

non lunga *p* *mf*

p

ハ ル ハ メ グ ル ト モ カ ハ ラ ス
は る は め ぐ る と も か は ら ぬ

p

mp *p*

ア ネ ノ ホ ホ エ ミ ヨ イ ト シ キ
あ ね の は ほ ゑ み よ い と し き

mp *p*

姉
妹

mp *rit.*

イ モ ト ノ ホ ホ エ ミ ヨ
い も と の ほ ほ 一 ゑ み よ

mp *rit.*

二、桃の花咲く 雛祭、春三月の窓近く、
姉と呼び、妹と呼びて、睦しく、
あ、めでつつ雛を飾りけり。
あ、心やさし、姉妹。
幾たび春はめぐるとも、
幾たび春はめぐるとも、
いとしき妹のほほゑみよ、
いとしき妹のほほゑみよ、

二、よめな摘合ふ草堤、はや夕霧のこめたれば、
姉と呼び、妹と呼びて、語りつつ、
あ、手を取合ひて歸りけり。
あ、心やさし、姉妹。
幾たび春はめぐるとも、
幾たび春はめぐるとも、
いとしき妹のほほゑみよ、
いとしき妹のほほゑみよ、

告別の歌

(二部合唱)

告別の歌

$\text{♩} = 84$

mp

ハ ナ ハ サ ケ ド ト リ ハ ウ タ ー
は の く さ き も あ た り の な か

mf

へ ド ワ ザ ヲ ヘ シ ヨ ロ コ ビ ア レ ド イ
め も な つ か し の お も ひ で み ち て い

一一二

告別の歌

マ ソ シ ル ソ カ レ ノ コ コ ー ー ロ
ま よ り ゴ こ こ ろ に か か ー ー ー る

や、おそく
心をこめて

p シ ノ キ ミ ノ ア ツ キ ミ ラ シ ヘ カ ギ
よ き と も よ さ ら ば わ か れ ぞ ま こ

meno mosso
p espressivo *mf* *p* *mf*

Red. *

mf *poco rit.* *v.f* *f* *poco rit.* *

リ ナ キ ア イ ヨ ヒ カ リ ヨ
と も て と は に お も へ や

一一三

* 此のフェルマータをもてる四分音符は、前段の速度をうけて約三拍の間延聲。

Tempo I

mf

Tempo I

mf

ワレ - ラ ミ - ナ イ カ デ ワ - ス -
わ れ - ら と - て い か で わ - す -

mp

f

レ ン コ ノ マ ド ニ マ ナ ビ -
れ ん こ の そ の に む つ び -

mp

mp

シ ヒ ヲ - バ ニ シ ヒ を -

f

dim rit

撫え

二九、告別の歌

一、花は咲けど、鳥は歌へど、
業卒へし喜あれど、
今ぞ知る、わかれの心。
師の君の厚き御教、
限りなき愛よ、光よ。
我等みな、いかで忘れん、この窓に學びし日をば。

二、庭の草木も、あたりのながめも、
なつかしの思出満ちて、
今よりぞ心に繋る。
よき友よ、さらば別ぞ、
信もて永遠に思へや。
我等とて、いかで忘れん、この園に睦びし日をば。

新訂
高等小學唱歌
伴奏附

不許複製

初

第二學年用 定價金五拾六錢

昭和十年四月十二日印刷
昭和十年四月十五日發行

文部省

著作權者 文 部 省

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行者 大日本圖書株式會社

代表者 專務取締役 杉山常次郎

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷者 大橋光吉

東京市小石川區久堅町百〇八番地

印刷所 共同印刷株式會社

東京市京橋區銀座一丁目五番地

發行所 大日本圖書株式會社

振替貯金口座〔東京二一九番〕電話京橋二七三番二七四番

1977. 7. 19



広島大学図書

0130449485

